

光市医師会報

昭和52年1月発行

No. 54



われわれがなすべき多くの仕事をもたないかぎり、怠惰を完全にたのしむことはできない。(ジエローム)

光市医師会

昭和52年の新春を迎えて

光市医師会長 林 孝之

明けましてお目出とうございます。会員の皆様には、お元気に幸せな新しい年を迎えられて、まことに御同慶の至りでございます。光市医師会もお蔭をもちまして大過なく越年でできましたことを深謝申し上げますと共に今年も相変りませず御盡力を賜りますようお願い申し上げます。

今年は動乱混迷の年と言われております。医界における波風も決して穏やかなものでないであろうと予測されます。本来、医学や医療は政治、社会、経済とは無縁であるべきものでありますが、「保険医療」とか「地域医療」という系態から見ますときは、どうしてもこれ等との関連なしでは医学と医療が平行し得ないという現実を無視することができません。特に医療の第一線にあるわれわれとしては重要な今日的課題であります。これを個々の医師として対処することは極めて困難であります。医師会の持っている第一の使命は、この問題をどの様に解決し、医療本来の姿を具現していくかということであると思います。一方、われわれ一人一人としましては、現今医師の在り方についての巷間の言葉に充分耳を傾けるだけの広い心を持ちながら、吾々が医を志した時の初心を完遂するために、たゆまぬ切磋琢磨を続けていくことが必要であると思います。そのような医師の集団であってこそ、はじめて此の問題を解決し得る能力を持つ医師会であると思います。医師らしい医師であり、医師会らしい医師会であらねばなり

祝巳年

1977年1月

叡智と勇気が日本と地域社会の医療に光明をもたらすことを期待し、会員の皆様の御健康を祈念します

医師会長

役員一同

ません。とにかく「〇〇ぶる」ことが今日の風潮であります。これは、吾々の決して採るべき態度ではないと思います。又われわれの前には「営利」というものはなく、在るのはあくまで「学問」であり、営利によって学問が歪められるということがあってはなりません。これが医師としての、医師会としての進むべき道であると思います。さて本年の医師会活動の中での重要事項としましては、昭和52年度光市医療行政における協力態勢についての協議、産業医の問題、周南医学会引受、県臨床外科学会引受等があり、又参議員選挙の年でもあります。これらの諸問題について皆様方により一層の御協力を得まして光市医師会が本然の姿を維持推進できますようお願いいたします。

終わりに皆様方の益々の御発展、御活躍を御祈りして年頭の御挨拶といたします。

医師会月間行事

12月19日(土) 忘年会 於松屋旅館

1月11日(火) 新年集会 午後7.30 於
光市医師会

1月13日(木) 医師会役員と市民病院との
懇談会 午後7.30 於松屋旅館

○出席者 林会長、大野副会長、松村、福
本、富恵、伊藤各理事、本庄市民病院
長、山井副院長、外4名

○市民病院の在り方と一般医療機関との連
繋について

1. 総論的事項

(イ) 光市医師会より光市長への意見
書

(ロ) 医療機関相互間の連繋について

(ハ) 市民病院の意見及び要望

(ニ) 市民病院への要望

2. 各論的事項

(イ) 臨床検査について

① 検体の集め方 ② 検査成績
の連絡 ③ 検査料

(ロ) 主治医と病院との連繋

① 検査依頼(断層、脳波等の
患を送っての場合) ② 診断
依頼(通院、入院、退院時
の連繋)

③ 救急、休日、夜間診療につ
いて

○ 主治医が原則として初療
を受け持つ

○ 市民病院に依頼する必要
があるときは直接当直医

と話し合う(受付で拒否
されないこと) 担当医が
当直でない場合、可能な
れば病院より担当医へ連
絡し臨時出務を依頼する。

○ 会員よりの依頼につい
ては原則としては一応収容
し、若し再搬送を要する
場合は病院で行なうか、
又は収容できないときは
再搬送について助言する

○ 主治医は極力初療に当た
り、何でも市民病院に頼
むという形をとらない、
お互いに医師会員である
から共同で分担し押しつ
けあいをしない

(イ) 市民病院の在り方

○ 準二次病院のあつては
しい

○ 周南地区医療圏としての
二次病院が行政側と医師
会との協議で決定される
運びになっている。

(3) 本庄病院長より、医師会とのよりよ
い連繋のため、市民病院を「セミ
オープン式」形態にしてはどうか
と云ふ発言があり、意見を求めら
れた。

ある風景

大野 宗二

なんの変りばえもしなかった山にいつの間にか、右に左にうね、うねと曲って、山頂に届く道らしいものが出来上った。

ちょっと小高い所なら、此の風景は光市のどこからでも眺められる。

いや、むしろ山の方から人々の目の中に飛びこんでくる。

曇天の日には黒々と沈んでいささか無気味だけれど、晴天の日には白々と輝いて山頂に興味と夢をさそう。



一体頂上になにがあり、なんの為の道だろうか、未だ誰も知らない。

たれかが言った。大蛇がうねっている様だとそう云えば、そんな恰好にも見られないこともない。科学にうらずけられた人間の叡智が「巳年」の巳の執年の横に、そそり立つ山腹をよじ登って見事な景観を作りあげた。

諸君、いつか登頂解禁の日に、あ

の山頂に登ろう。うねうねとした道を歩いて。頂上にはすばらしい何かがあるにちがいないから。

あとがき

不換紙幣が乱舞し、油上にさまざまな社会悪と矛盾を抱きながら虚構の繁栄を謳歌した高度経済成長の時代はあえなくも去り、今、むなしい反省をかみしめつつ、安定の美名の下に、実は極めて不安定な年をむかえた。

社会も無原則に推移するものではなからう、社会もある定まった科学的根拠に従って蛇行するものとするならば、現状も一つの進歩として肯定してよからう。過去をふりかえてみよう、高度成長時代に自由資本の論理に従って、製薬産業の貼布合戦を主体にした拡売にいささか辟易した記憶は未だ心の片すみに残っておる。昭和46年健保制度の改善を求めて保険医総辞退の一大斗争を行った当時に約束されたさまざまな基本的な重要事項は果して改善進歩したであろうか。今十数の団体が所謂社会的公平のローガンの下に立ち上ってきた。世情に超然たるべき医療の世界にも、或いは大きな波紋をなげかけるかも知れない、吾々は正しい医療労働の論理をふまえ、科学的根拠にもとづく理論の構築を必要とするであろう(〇生)

寒菊にかりそめの

日のかげり果つ (汀女)

発行所	光市小周防1633の2林医院内
	光市医師会
	TEL 0833 77-2601
発行者	林 孝之
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社